

わかたけ

ゆり工房生活介護の
みなさんの作品です。



目次
2ページ ごあいさつ / 3・4ページ 宰府福祉会ってこんなところ
5・6ページ コミュニティインフォメーション (地域情報)

ご挨拶



皆様方には日頃より当法人の事業経営につきまして、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、去年は第三次中期経営計画（令和四年度から令和八年度の五年間）の初年度になります。この「経営計画」の重点項目の中でも「地域貢献活動の積極的な実施」と「多様なニーズに対応できる専門人材の育成と多様な人材の活用と確保」を最重点として具体的に取り組むことができました。

十月に「アクティビティセンター・コミュニティホールさいふ」が完成し、スタートすることができました。人材確保と育成のための研修やホールの地域開放と地域との交流、そして災害時の福祉避難所等に使用する多目的ホールと障がいの重度化・高齢化した入所者や多様な障がいのある通所者への対応のための通所者棟の整備を行うことが出来ました。

また、十一月には、法人の地域貢献事業として、今回は、すみれ園卒園児を対象とした「障がいのある子供の子育て家族への交流の場の提供」を実施しました。子育て中の親子の孤独感や不安の増大等に対応するための、子育てに関する相談・援助や親子交流と親同士の仲間づくり等を実施しました。

人材確保・定着と専門人材の育成では、OJT研修の充実や重度障がいや行動障がいに対する外部研修、ケース検討会等の実施、役職マネージャーのフォローアップ研修の実施に取り組むことができました。

今年は、干支の「癸卯」、「これまでの努力が花開き、実り始める」という意味を信じて、原点に返り努力を続けたいと思っております。

今年は目標を絞って、まずは、人材の育成として、「法人理念の具体化と浸透の体質づくり」、二つ目は「各拠点管理業務の確立と業務の標準化・サービスの標準化とサービスの向上」、この二つの目標に集中して取り組むことで飛躍を目指したいと思っております。

法人のモットーである「一人ひとりを大切に」を常に実践し、地域や利用者の皆様の多様な福祉ニーズに、しっかり向き合って、応えていくことに、努めていきたいと思っております。

今後とも、障がい福祉の理念に基づいて、誠実で質の高い福祉サービスの提供に努めて参りますので今後ともよろしくお願い申し上げます。



令和5年1月
社会福祉法人 宰府福祉会
理事長 草本 武俊

宰府福祉会って、こんなところ！

ライフステージに応じた法人内サービスをシリーズでお伝えしています。

幼児期～学齢期
(～18歳)

成人期 (18歳～)

●児童サービス



- 【児童発達支援】 すみれ園
- 【保育所等訪問】 すみれ園
- 【受託事業】 にじいろキッズ (那珂川市療育センター)
- 【放課後デイ】 すみれ園 たんぽぽルーム
- 【受託事業】 つくしんぼルーム (太宰府特別支援学校 放課後等支援事業)
- 【受託事業】 障害児等療育支援事業 (福岡県受託事業)

住む

●居住系サービス

- 【施設入所支援】 宰府園
- 【グループホーム】 GHやまもも・アンダンテ・春日ホーム
- 【短期入所】 宰府園・GHやまもも

働く

●就労系サービス

- 【就労継続B型】 宰府園・やまもも・ゆり工房 (受託)
- 【福祉の一般就労】 さぼーと春日

活動

●日中活動系サービス

- 【生活介護】 宰府園・やまもも・ゆり工房 (受託) ・にじ (受託)
- 【日中一時】 宰府園・やまもも・ゆり工房 (受託)

訓練

●訓練系サービス

- 【就労移行】 ゆり工房 (受託)
- 【自立訓練】 にじ (受託)

計画
相談

●相談系サービス

- 【計画相談・障がい児相談】 やまもも・すみれ園相談支援センター

訪問

●訪問系サービス

- 【居宅介護・同行援護・移動支援】 宰府園在宅サービス

第7回 「相談・訪問系サービス」

●計画相談・障がい児相談

幼児期

学齢期

成人期(18歳～)

計画
相談



一人ひとりにあったサービスを効果的に利用するためにマネジメントを行うサービス

障害福祉サービスの利用申請時の「サービス等利用計画案」の作成、サービス支給決定後の連絡調整、「サービス等利用計画」の作成を行います。さらに作成された「サービス等利用計画」が適切かどうかモニタリングし、必要に応じて見直しを行います。

このサービスでは、障がいのある方の意思や人格を尊重し、常にご本人の立場で考え、障がいのある方が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう支援します。

やまもも・すみれ園相談支援センター

相談支援事業の開所時の事務所は、那珂川市の「障がい福祉サービス事業所やまもも」の敷地内でした。また、法人唯一の子どもの事業所が「児童発達支援センターすみれ園」だったことから『子どもから大人まで』という意味を込めて「やまもも・すみれ園相談支援センター」となったとのこと(草本管理者談)です。長い名称ですが、そのお陰でいろいろなお知らせが寄せられています。

当センターは現在、約370名程のご利用者様がいて、子どもと大人の割合が約4:6です。毎年数名の高校卒業生がいて、大人の割合が増加傾向にあります。毎月ケース会議をする中でよく課題になるのが、65歳問題です。65歳を過ぎ、サービスが必要な方は、介護保険の申請をすすめられます。ずっと使っていたサービスが利用できなくなるのでは？と不安になる方もいらっしゃいますが、必要なサービスはニーズに応じて使うことも可能ですので、安心してください！

わからないことがある時は、いつでもご相談ください。

(相談支援専門員 井上)

＜サービス利用の流れ＞



宰府福祉会って、こんなところ!

「訪問系サービス（居宅介護・同行援護・移動支援）」

●居宅介護

幼児期

学齢期

成人期(18歳～)

訪問

地域での生活を支えるための基本サービス

ホームヘルパーが、自宅を訪問して、入浴、排せつ、食事等の介護、調理、洗濯、掃除等の家事、生活等に関する相談や助言など、生活全般にわたる援助を行います。

障がいのある方の地域での生活を支えるために基本となるサービスで、利用者本人のために使われるサービスです。

●同行援護

不安と不便を解消し安心して出かけるためのサービス

移動に著しい困難を有する視覚障がいのある方が外出する際、ご本人に同行し、移動に必要な情報の提供や、移動の援護、排せつ、食事等の介護のほか、ご本人が外出する際に必要な援助を適切かつ効果的に行います。

単に利用者が行きたいところに連れて行くだけでなく、外出先での情報提供や代読・代筆などの役割も担います、視覚障がいのある方の社会参加や地域生活において無くてはならないサービスです。

●移動支援

市町村が独自に行うサービス

屋外での移動が困難な障害のある方について、外出のための支援を行います。

障がいのある方の福祉の増進を図るとともに、すべての国民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与することをめざします。



宰府園在宅サービス

在宅サービスでは、サービス提供責任者1名と男性1名の職員が常駐、登録ヘルパー複数名により在宅の障がい者に居宅介護、移動支援などのサービスを提供しています。

特に、視覚障がい者を対象にした「同行援護」は事業開始当時から力を入れてきたサービスです。同行援護は視覚情報の提供を中心とした内容ですが、ご利用の方から「季節感を感じながらゆったりとした気持ちで散歩できるのでリフレッシュできます」「代読してもらって助かっています」などの声が聞かれ、喜んで頂いています。

今後も、みなさんの「困った」「手伝ってほしい」という声に寄り添い、充実した在宅生活が送れるようサポートしていきます。
(管理者 大内田)

宰府福祉会は「一人ひとりを大切に」をモットーに、障がいのある方たちへ様々な福祉サービスを提供しています。これまで7回にわたって、法人内福祉サービスの概要をご紹介させて頂きましたが、今回で本シリーズは終わりとなります。

少子高齢化社会の現代において、福祉ニーズは多様化しており、社会福祉法人の果たす役割と責任も大きくなっています。現在、宰府福祉会では、障がいのある方たちへのサポートを中心に、地域に暮らすみなさんの困りごと（地域課題やニーズ）にも柔軟に 대응していけるよう「地域生活支援センター」の整備をすすめているところです。これからは、共に支え合い、自分らしく生活できる地域共生社会の実現に向けて、法人として、できることに積極的に取り組んでいきたいと考えております。今後、本誌でも紹介させて頂く予定です。乞うご期待。





感じよう！！地域の中で繋がりを！ ～地域で子どもたち こそだて応援活動報告～

社会福祉法人宰府福社会では、地域貢献の取り組みとして、地域の皆様と一緒に様々な福祉に関する活動を実施させていただきたいと考えております。

今回はその取り組みの1つとして、すみれ園の卒園児小学1～3年生と地域療育で関わっている乳幼児さんをご家族を対象に、法人内施設児童発達支援センターすみれ園を解放し、活動を実施しました。

今回の活動の目的

- 1, 宰府福社会としての地域貢献活動を推進する。
- 2, 園開放を行い、法人事業を知ってもらう機会の1つとする。
- 3, 来園した子どもたちとそのご家族の方がともにホッとする場の提供を行う。

目的1を実施するにあたり、法人職員と地域貢献事業の目的を共有するために、法人内の共有ツールを使用し、目的や計画案を周知しました。

目的2を達成するために、法人の強みでもある子どもから成人までの支援・サポートについて知ってもらいたいという考えから、成人施設によるコーナーを設置しました。また、来園してくれた子どもたちが楽しめる体験コーナーを計画し、身近に感じてもらいたいと考えました。当日のコーナーでは、子どもたちの笑顔を見ることができました。

目的3を達成するために、感染対策を行いながら、懐かしい雰囲気の中にコミュニケーションがとれる空間をつくりました。保護者同士や職員と保護者、子どもたちと関わり、繋がりを感じることができました。

保護者の方たちから、子どもたちが学校等で頑張っていることや悩んでいること等をお話していただきました。成長しているが故に悩んでいることや年齢と共に自分と向き合おうとしている姿等のお話から、幼児期を卒園し、新たな学童期というステージで頑張っていることを感じさせてもらいました。保護者の我が子へのあたたかい思いも伝わってきます。そして、子どもたちがこれから新たなステージに向かっていく姿、たくましさも感じさせられました。

今回の活動を通して、みんなと繋がっているということ、何かあったら抱え込みすぎず周りに話せること、悩んでいる方がいたらそれをキャッチすることがとっても大切だと考えました。地域の中で、繋がりを感じることができる取り組みを少しずつしていきたいです。また、みんなでお会いしましょう。

(社会福祉法人宰府福社会 地域貢献事業実行委員会)



～アンケートでいただいた声～

今回、参加者にアンケートを実施させていただきました。「どんな企画があったら参加したいですか？」の設問に色々なご意見をいただきました。

一番多かったのは「親子が集まっての交流の場所」です。すみれ園を卒園されて、小学校に入学し、環境がガラリと変わること、子どもも親も、不安や悩みなどを抱えていると思います。そんな時に交流の場で同じ悩みなどを感じている人と話せることで、気分転換にもなり、何よりも「すみれ園」を卒園した方々ですから 迷ったり悩んだりした時は、「原点」に戻ることが必要だということなのではないでしょうか。

ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。今後も色々な企画等を検討していきたいと思っております。



地域の学校との交流

福岡農業高校 交流 (宰府園)

12月20日(火)の午後、福岡県立農業高等学校の太鼓部・農業クラブ・家庭クラブ・生徒会の総勢約50名の皆さんが宰府園に来園し、交流会が行われました。「地域ボランティアの一環として施設を訪問し、生徒作品のプレゼントを行い、交流をすることで、生徒のボランティア活動や奉仕に対する精神を涵養する」という目的のもと、福岡農業高校の生徒さんたちが主催となって開催されました。

コロナ禍になって、そして新設されたさいふのホールを利用した交流会は初めてで、利用者の皆さんも胸を弾ませながら楽しみにしていました。

最初に行われた和太鼓は、身体の芯まで音が響き、魂のこもった演奏で、至近距離でのライブに皆さん息を飲んで魅入っていました。その後行われたビンゴ大会では、生徒の皆さんが利用者の隣に寄り添い、ともにビンゴを楽しみました。見事ビンゴになった方は、生徒さんたちが作った肉みそ・いちごジャム・トマトケチャップ・梅サイダー・ポテトチップスの中からランダムにプレゼントをもらいました。福岡農業高校の手作り食品は味に定評があります。早速その日の食事から食べている利用者も見られました。

コロナ禍で外とのつながりが少なくなっていた中、こうして交流会ができたことは利用者の皆さんの良い刺激になったと思います。また、福岡農業高校の生徒の皆さんには、地域交流・地域貢献につながる良い機会だったと感じてくれたら嬉しいです。(宰府園 間)



南畑小学校 交流 (やまもも)

やまももでは年に何度か、近くにある南畑小学校の小学生と交流会を行っています。昨年度までは、コロナ禍ということもありビデオレターでの交流のみでしたが、今年度は11月に職員と利用者代表の少人数で南畑小学校に行き、5年生との交流しました。やまももの利用者や活動の紹介、質問タイムで交流を深めることができました。小学生の皆さんは特に、やまももが下請け作業で行っている自動車部品のコード差しに興味津々で目を輝かせていました。利用者も誇らしげで「久しぶりで楽しかった」「今度は小学生の皆さんもやまももに来てください」と、嬉しそうな様子でした。交流会の後、小学校からは新年に向けてしめ縄と、ビデオレターをいただきました。

また、2022年11月20日に行われた「南畑美術散歩」では、南畑小学校の体育館にやまももの作品を展示させていただきました。今後もコロナの状況を見ながら、小学校や地域の方々との交流を深め、障がい者の地域理解を深めていきます。

(やまもも 墨谷)

『編集後記』

昨年から、送迎業務に関わって、運転することが増えました。利用者さんを乗せるのでいつも以上に安全運転を意識しています。さらに燃費向上も考えて運転するようにしています。それは、燃費を上げることは安全運転につながるからです。

【燃費向上につながる運転方法】

- ・発進時はゆっくりとアクセルを踏む
- ・急加速・急減速をしない
- ・エンジンブレーキを上手く使う など

要は、安全運転を心がければ、燃費も自動的に向上するという事です。最近の車では平均燃費が出る車両が多くあります。それを見ながら運転をするのもよい方法だと思います。

身近なところでSDGsに取組むこともできます。

今後とも、事故のないように安全運転に心がけていきたいと思っています。(本部 羽根田)

お詫び

入所施設である宰府園で新型コロナウイルスクラスターが発生したことで、1か月遅れての発行となりました。

皆様には、ご心配とご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

